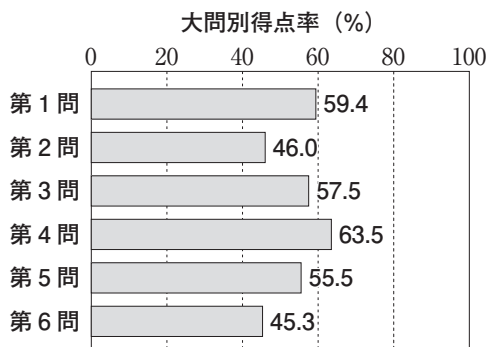
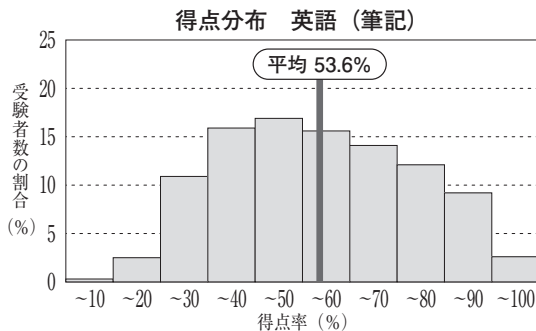


英語 (筆記)

1年後を見据え、文法を中心とした基礎固めを図ろう。

I. 全体講評

本年度のセンター試験は、昨年と比較して大きな変化は見られなかった。当然ながら、今年のセンター試験本番レベル模試も近年の傾向を踏まえて問題を提供していくことになるだろう。その第1回目の結果であるが、受験学年の平均点は107.3点で、この時期としては標準的な成績であった。これを出発点として、来年度の本番を迎える頃には大きく成長してほしい。受験生諸君は各回の成績の変動にあまり神経質になるのではなく、自分の弱点を確かめながらその部分を重点的に復習し、次のテストに備えることが大切である。そのようにして地道に努力していけば、最終的には必ず本物の得点力が身につくであろう。



II. 大問別分析

第1問 発音・アクセント

今のうちに基本を徹底的に復習しよう！

センター試験の第1問は近年継続して基本的な出題形式を採用している。Aの発音問題が3問、Bのアクセント問題が4問である。今回の本模試での第1問の得点率は59.4%で、全体としては悪くなかった。内訳を見ても、Aの全体平均は58.5%、Bが60.0%と、大きな差はなかった。ただし、小問ごとの正答率では、A、Bともに30%台の箇所が1問ずつあった。その1つはAの問1で、基本的なeの短母音と長母音の2つの音の区別を求めるものであるが、意外と紛らわしかったようだ。もう1つはBの問4で、4音節語のアクセントの位置を問うているが、アクセント問題としては基本的な問題であった。こうしたところを見ると、まだまだ基礎力に不安があることがわかる。

第2問 文法・語法・整序作文・応答文完成

オールラウンドな知識を身につけよう！

今年のセンター試験の第2問も昨年と同様の形式だった。今回の本模試での得点率は46.0%とやや不振であった。内訳は、Aの文法・語法・語彙問題が45.7%、Bの整序問題が42.2%、Cの応答文完成問題が50.2%だった。AとBに関しては、小問ごとの正答率にかなりのばらつきが見られた。Aでは正答率が10%台から30%台前半に終わった小問が5問あったが、それらは文法・語法・イディオムの各分野からの出題であり、ここではいかに総合力が問われているかがわかる。また、Bの整序問題でも極端に出来ない小問があったが、ここで鍵を握るのは文法力である。文法の知識は第2問全体の成績に大きく影響するだけでなく、読解問題征服のための基盤を成すとも言える。この分野に不安のある人はぜひとも早いうちに対策を講じてほしい。

第3問 文脈把握(対話文空所補充・文削除・要約)

様々な文章を多く読み、文脈把握力を高めよう！

近年設問形式に変化が見られた第3問であるが、形は変わっても、文脈を読み取らせるという基本的な出題の意図は不変である。今回の第3問全体の得点率は57.5%とまずまずの出来で、Aの会話問題の平均正答率が66.4%、不要文削除のBが60.3%、意見の要旨を選ぶCは51.1%と、Cがやや不振だった。ただし、小問別の正答率を見ると、40%を割った箇所がなく、バランス的には安定していたと言える。どのパートについても、間違えた箇所があれば、各自で解説を参照しながら見直してほしい。ここでは、会話、説明文、意見発表など、様々な種類の文が素材となっているが、どの形式であろうと試されているのは文脈把握力であり、それは日頃の読解作業を通じて養う他はない。

第4問 説明文と図表・説明文書などの読み取り

第4問に適した読み方、解き方を身につけよう！

今回の第4問の得点率は63.5%で、今回の大問の中では最も良い成績であった。図表を含む説明文を素材としたAの平均は64.5%、広告文書を素材としたBは62.3%と、大きな差はなかった。小問の正答率を見ても、最低でも40%台後半はキープし、総じて安定していた。ここはセンター試験に特有の形式であり、また特に細部の情報の読み取りに注意が必要である。今後はこれらの形式に慣れる必要があるとともに、日頃からの精読の訓練も怠らないようにしたい。また、特に第4問Bでは、設問を先に読み、解答に必要な情報を本文中に素早く見つけることで時間を節約することが大切である。

第5問 物語文の読解

ストーリー性のある英文にも親しもう！

センター試験の第5問は、昨年来1つの物語文に基づく問題へと変更された。ストーリー性や主観性に重点を置いた素材文に慣れ親しんでおくことは今後も重要であろう。今回の第5問は全体の得点率が55.5%と平均的であった。小問別正答率も40~60%台の範囲内にあり、全体的にまとまっていたと言えるだろう。しかし、例年のことであるが、このあたりから無回答率が徐々に高くなっている。終盤に至るまでの過程でいかに効率よく解答できたかが問われることになるだろう。

第6問 説明的文章の読解

時間配分を考えて問題に取り組もう！

例年出題される説明的な文章を素材とした内容一致問題である。今回の得点率は45.3%と全大問中最も低かった。6問のうち5問の正答率が50%に満たなかったように、最後の難問に対する対応力はまだ十分とは言えない。また、無回答率が3%台から6%台にまで及んでいるのが目立った。例年言えることであるが、まだこの段階では全問を解くだけのスピードが身につけていない受験者が多い。そして、全問マークをした受験者であっても、確信を持ってない解答が多かったのではないだろうか。時間的な余裕さえあれば、決して難しい問題ではない。今後効率のよい解き方を覚えるにつれて、この最後の大問でも得点を伸ばしていくことが期待される。

Ⅲ. 学習アドバイス

今回は第1問・第2問についてアドバイスを述べておこう。第1問の発音・アクセントの分野については、母音字と子音字が表す基本的な音声は中学英語で学習済みのはずである。センター試験の対策としてはその基本に多少の肉付けをして、出題頻度の高い単語の発音を優先して覚えたい。その際にはぜひ音読を心がけよう。また、アクセントでは特に語尾の形でその位置が決まるケースもある。これらの傾向を覚えるのも一助となろう。ただし、その際にも字面のみを見て覚えようとするのではなく、必ず声に出して覚える習慣をつけてほしい。

第2問では文法・語法・語彙など多面的な力が試される。文法については、教科書や標準的な問題集を通じて知識を定着させておくことが必須である。文法の力は、Aの文法問題だけでなく、Bの整序問題やCの文完成問題でも問われることになる。さらには、あらゆる読解の基礎でもある。この分野の対策は早いうちに取り組んでほしい。熟語や語法も第2問で重要な位置を占める。熟語に関しては熟語集を利用するのも効果的であろう。語法についても、基本的なレベルは問題集などでカバーできるが、完璧を期することはなかなか難しい。その意味では、語彙力アップを兼ねて、なるべく多くの英文を読むことを心がけるのが得策であろう。遠回りのように見えても、多読の効果を信頼すべきである。